

「連換調整」!

いつまでやるのか?!

「新交検」以降は作業時分にも余裕のない中で

10年近くもデータを取り続ける必要があるのか?!

2007年から「季節毎の新幹線電車の車内圧の推移に対応するため」の「データ取り」ということで社員の協力で行ってきている「連続換気装置・給気開口寸法調整（連換調整）」も来年で10年を迎えます。

ただでさえホコリっぽく汚れる作業なのに加えて、今年の3月末の「交番検査周期延伸」「新交検（140分）」以降はタイトな作業時分の中で「磁気栓検査」などの他の作業や、作業量の増えている「消耗品交換」や「アルミナ粉補充」なども加わり現場の作業は時間に余裕のない状態が続いていますが、現場の作業者の「工夫」でなんとか大きな遅れを出すことなく作業を廻しています。そんな中、また12月1日から「連換調整」がはじまりました。

「新交検」以降は1日に施工する交検本数が減ったために今までは約半月で終了していた「ワンクルの連換調整」が1ヶ月以上かかります。最近でいうと9月1日から行った「調整（開口寸法70mm→65mm）」が10月5日にやっと終わりました。従来通りなら12月までに次の「調整（65mm→60mm）」を終えるために10月末か11月1日から「調整」を行うべきところ、それでは社員から反発を受けると考えたのか、今回「調整時期」を約1ヶ月後にズラしての「施工」です。

最初に「調整」した編成と最後に「調整」した編成では1ヶ月以上の開きがあります。また昨年11月から6編成については「試験的に連換調整をせず開口寸法65mm固定」で走行させています。試験編成にご乗車されたお客様から何か「苦情」でもあったのでしょうか。「業務研究会」等では、連換調整と車内圧のデータに基づいて発表など行われていると聞きますが、「データ取り」に協力している社員には一切明らかにされていません。

「季節毎の車内圧変動に対応する」と言うのなら「交検のついで」にダラダラやらず人手を付けて数日のうちに「連換調整」を施工すべきだと思いますが、社員の皆さんはどう考えますか?!